

なにわの伝統野菜、25品目に

大阪府が「石川早生芋」を認証



ほ場風景（大阪府環境農林水産部農政室提供）

大阪府は昨年10月3日付けで、「石川早生芋」を新たな「なにわの伝統野菜」に認証した。なにわの伝統野菜は、①昭和初期以前（概ね100年前）から大阪府内で栽培され、②苗・種子等の来歴が明らかで大阪独自の品目・品種・栽培方法によるもの、又は府内特定地域の気候風土に育まれたものであり、栽

培に供する苗、種子等の確保が可能で、③現在も府内で生産されている野菜を認証するもの。今回の認証を含め、計25品目が認証されている。

石川早生芋は、粘質で味が良く、芋が小ぶりで丸いうえ、早生種であることが特徴。江戸時代には原産である南河内郡石川村（現河内町）を表す「河州石川」の名とともに生産・流通の記録が寛政11年（1799年）の「青物市場記」に確認されるなど、古くから大阪の土地に適し、生産されてきた。現在も、南河内管内では石川早生芋が生産されているほか、泉州地域では、石川早生芋と

石川早生芋の魅力是和菓子に

地元店舗が開発

富田林市喜志の和菓子屋「御菓子司 かつら屋」では、石川早生芋を使用したお菓子「太子の里」を販売している。

を用いたお菓子を数多く販売。また、無添加で素材の味を活かす、季節ごとのお菓子づくりを、とことん追究してきた。

平成20年に（一社）大阪府食品産業協会（当時）と連携して石川早生芋の粉末化に取り組んだ。白あんに練り込み、石川早生芋の食味と風味を楽しめるお菓子となっている。

同店ではこれまでも河内ワインやイチジクなど南河内の特産

2代目代表・奥田辰造さんは、「この地に根差す和菓子屋として、これからも石川早生芋をはじめとする南河内の特産を活かし、試行錯誤を重ねながら、地域の魅力を伝える菓子づくりに取り組んでいきたい」と話す。

（沼田）



歴史ある特産品を市民にPR

門真市農委

門真市農業委員会（西村覚会長）は11月8日、門真市農業まつりの記念事業として、同市農業の市民理解の促進を図るため、同市の特産品で、「昨年」なにわの伝統野菜」にも認証された河内れんこん（門真れんこん）の写真展示を行った。

た農具も並べられ、来場者の関心を集めていた。

西村会長は「門真れんこんをより多くの方に知っていただき、なにわの伝統野菜として後世に残せるよう、今回の写真展が少しでもお役に立てれば」と話す。（林佑）

写真展示を行った。

同市では古くから粘土質の土壌に恵まれ、市内に自生していたレンコンに品種改良を重ねてきた。昭和初期以前から独自の栽培方法により誕生したものが門真れんこんで、もちもちとした食感と独特の粘り気が特徴だ。

会場では、畑に運搬用の船を浮かべて播種する様子や、収穫、出荷調整の風景など、同市農業の特色が伝わる写真を展示した。また、「備中くわ」や「レンコンすき」といっ



西村会長と11月8日の展示ブース

もに同系の「中野早生芋」が生産されるなど地域に根付いており、先述の3要件を満たしていることから認証に至っている。元大阪府立食とみどりの総合技術センター（現・地独大阪）

府立環境農林水産総合研究所）主任研究員の森下正博さんは、「今回の認証に際して来歴等の調査に携わった。長年の研究が認証という形で実を結び、安堵している」と話す。（沼田）